

ケーブルテレビから VOD へ

酒井 寿紀 (Sakai Toshinori) 酒井 IT ビジネス研究所

見切れないほどの番組が

ケーブルテレビにもいろいろあるが、ここで取り上げるのは、何 10 チャンネルも見ることができる多チャンネル放送である。

日本のケーブルテレビでは J:COM が最大だが、小生は居住地の関係で ITSCOM (イツコム) に加入しているので、ITSCOM で現在のサービスの一端をご紹介します。

契約内容によって異なるが、約 5,000 円/月で 50 チャンネルほどのテレビ番組を見ることができる。海外のドキュメンタリには、世界各地の風物や歴史の真相究明などを扱った見ごたえのあるものが多い。映画のチャンネルでは、過去に見逃した名画を見ることができる。海外のニュース番組では、欧米のメディアが世界の動きをどう捉えているかが分かる。

その他、ゴルフ、音楽、アニメ、囲碁・将棋などの専門チャンネルもある。費用がかなり高いが、他の手段では入手できない貴重な情報が豊富なので、利用している人も多いことと思う。

Netflix、Hulu 登場

ところが最近、米国などで、ケーブルテレビを解約したり、必要最小限の契約に変更したりする人が増えているという。ケーブルテレビの配線を切断するので“cord cutting”と呼ばれている。その原因としては、不況の長期化などいろいろ考えられるようだが、インターネットを利用した VOD (Video on Demand) の台頭

がその 1 つだという。VOD といっても、番組全体をダウンロードしてから見るのではなく、ダウンロードの開始と同時に視聴を始められるストリーミング方式のものである。

その代表的なものを 2 例ご紹介しよう。

現在最も普及しているのは、米国で 2007 年に VOD のサービスを開始した Netflix で、約 8 ドル/月で、見たい映画やドラマを見たいときに無制限に見ることができる。視聴方法は、2011 年 7 月のニールセンのリポートによれば、ゲーム機の Wii や PS3、Xbox 360 を介してテレビで見ている人が全体の 50% で最も多い。次に多いのがパソコンの画面で見ている人で 42% だ。パソコンやブルーレイディスク・プレーヤをテレビにつないで見ている人 (計 25%)、インターネット接続機能付きのテレビで見ている人 (6%) がこれに続いている。合計が 100% を超えるのは、複数の方法を利用している人がいるためだろう。

Netflix の契約者は、米国、カナダ、英国などの合計で、2,300 万人に達したという。米国のケーブルテレビの契約者が約 1 億人なので、そのほぼ 1/4 に相当する。

Hulu (フールー) というサービスも、同様にインターネットを使ってドラマや映画を VOD で配信している。2008 年 3 月に米国で無料サービスを開始し、2010 年 11 月に、コンテンツを充実して、約 8 ドル/月の有料サービスを始めた。Hulu は日本でも 2011 年 9 月からサービスを提供しているが、料金が 1,480 円/月で米

国に比べて高い。

Hulu のサービスを提供している会社は、NBC ユニバーサル、FOX エンターテイメント、ディズニー-ABC テレビジョンなどの合弁なので、偏りはあるがコンテンツが豊富である。当初は利用できる機器が Netflix に比べて少なく、前出のニールセンの調査では 89% がパソコンでの視聴者だ。しかし、最近テレビに接続して視聴できる機器が増え、また Android のスマートフォンなどでも利用できるようになった。

Hulu の 2011 年末の有料の契約者は約 150 万人ということで、Netflix に比べればまだ 1/10 以下だが、2011 年の 1 年間だけで 5 倍以上になったので、今後 Netflix の強力な競争相手になると思われる。

なぜ VOD か？

前記のように、ケーブルテレビには見ごたえのある番組が多いが、難点は放送時間が決まっていることだ。スポーツの実況中継などは別にして、映画やドキュメンタリを放送時間に合わせて見る必要はまったくない。そこで、録画予約を利用することになるが、見たくもない番組の大海の中から見たいものを探し出して予約するのは厄介だ。

本でも音楽でも、読みたいもの、聴き

たいものを探すときは、ジャンル、作者、作曲家などで絞り込むことができるが、テレビ番組は放送時間順に並んでいるだけで、検索の手段がないので、見たいものを探すのが大変だ。要するに「放送」という番組の提供方法は、映画やドキュメンタリには合わないのだ。

そのため、見たい番組を見たいときに見ることができる VOD の仕掛けが望まれるのだが、今までは技術的な問題のため不可能だった。しかし、最近のブロードバンドを使ったインターネットでこれが可能になったので、今後はこの VOD が従来の多チャンネル放送に取って代わるものと思われる。

トラフィックが問題

VOD の大きな問題はデータ量が莫大なことだ。サンドバイン社の調査によると、2011 年 9 月の北米のインターネットの下り方向の全トラフィックのうち、Netflix が実に 28% を占めているという。現在の限られたコンテンツでさえこういう状況なので、今後コンテンツが充実して利用者がさらに増えれば、インターネットがパンクするのは目に見えている。そのため、インターネット網の増強とともに、課金方法の見直しが必要になると思われる。